



オバシギは全長28.5センチで少し下にまがった長くちばしにずんぐりした体形



トウネン「H06」写真撮影・提供：Tony Neilson、情報提供：(公財)山階鳥類研究所保全研究室(鳥類標識センター)



館内にある望遠鏡や双眼鏡で観察を楽しめます

●谷津干潟へようこそ！オーストラリア・北西部からやってきたオバシギ「IPP」  
フラッグは地域ごとに色の組み合わせが異なり、谷津干潟では海外のフラッグを付けたシギやチドリも確認されています。2017年8月17日に黄色いフラッグに「IPP」と刻印されたオバシギが谷津干潟で観察されました。海外の標識関係者に問い合わせると、2015年7月にオーストラリア・西オーストラリア州にあるローバック湾でフラッグを付けた個体でした。谷津干潟での観察は海外では初の記録だということもわかりました。

●谷津干潟のトウネン「H06」オーストラリアで発見される！  
2017年9月に谷津干潟で「H06」という刻印入りのフラッグを付けたトウネンが、同年12月に5千480キロ離れたオーストラリア・クイーンズランド州ケアンズ北部にあるヨークキーズ・ノブという湿地で観察されました。トウネンはスズメ位のおおきさで体長15センチ、体重約20グラムで谷津干潟の飛来するシギの中で一番小さい水鳥。この鳥によって、わずか40ヘクタールほどの谷津干潟が遠い外国とつながっていることが証明されています。

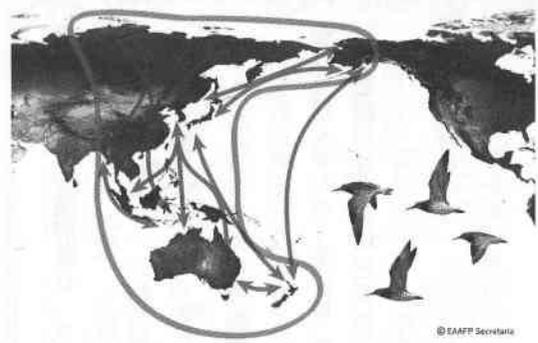
●シギ・チドリに会いにきてね！  
9月になると、その年に誕生したシギ・チドリの幼鳥が生まれて初めて谷津干潟に渡ってきます。シギ・チドリは親は親だけで先に渡り、子どもは後から渡ってくると言われていました。親鳥から教わらずに、なぜ谷津干潟の位置がわかるのでしょうか。不思議に思うことがたくさんありますが、地道に日々の観察を積み重ね、わかったことを広く皆さんにお伝えしていきたいと思えます。観察センターにお越しの際はシギ・チドリの魅力をたっぷりご案内します！



楽しみ方  
いろいろ  
谷津干潟

渡り鳥で感じる！  
世界とつながる谷津干潟

谷津干潟ワイズユース・パートナーズ  
谷津干潟自然観察センターチーフレンジャー 星野七奈



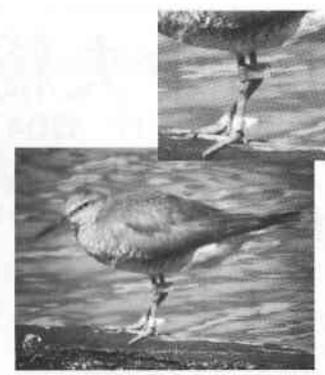
東アジア・オーストラリア地域のシギ・チドリの渡りのルート

●キアシシギ「J2」、「C6」今年も記録更新！7年連続谷津干潟に飛来  
キアシシギ「J2」と「C6」は、2011年9月5日に環境省・山階鳥類研究所が谷津干潟での標識調査(渡り鳥やその生息地の保全のため、渡りのルートを調査している)で刻印入りの青フラッグ(小さな旗)と三角の白フラッグが付けられた鳥です。観察センターでは鳥相調査を開館日に行っており、観察記録から「J2」と「C6」が毎年同じ時期に谷津干潟に渡っていることがわかりました。フラッグを付けてから今年で7年目。谷津干潟

毎年7月中旬から9月にかけて、シベリアなど北極圏のツンドラで子育てを終えたシギやチドリの仲間が、冬を過ごす東南アジアやオーストラリアへ向かう長い旅の途中で谷津干潟に立ち寄ります。今回は谷津干潟での観察記録や海外との情報交換などを通してわかったシギ・チドリの渡りについてご紹介します。

キアシシギ「J2」「C6」の初認日

年(西暦)	J2	C6
2012年	8月19日	8月25日
2013年	8月3日	8月3日
2014年	8月19日	8月1日
2015年	8月7日	8月2日
2016年	8月12日	7月30日
2017年	8月11日	8月13日
2018年	8月9日	8月3日



キアシシギは体長25センチ。長くちばしと黄色い足が特徴。

※初認日：渡りのシーズンに初めて確認した日

でフラッグを付けた鳥が連続して観察された記録を更新しました。仮に1年間にシベリアからオーストラリアまで片道1万キロを往復したとすると、これまで約14万キロを旅していることになり。大きな渡りをする不思議な生態や数万キロも渡る驚異的なパワーに驚かされます。